ゆめはま文庫

乳幼児向け絵本リスト

桑名市立図書館

≪ゆめはま文庫とは≫

子育て中で、初めての絵本や乳幼児期にどんな絵本を読んであげればよいか悩まれる保護者の方、また、なかなか図書館まで足を運べない保護者の方向けに、乳幼児向けの絵本（５冊）をセットにした≪ゆめはま文庫≫の貸出しを行っております。

市内の司書、保育士、保健師、文庫運営者、有識者で乳幼児期に適した絵本を選定し、５冊セットにしたものを、専用のバッグに入れて貸出します。

お子さまの年齢ごとに、昔から親しまれているロングセラー絵本や、成長に寄り添う絵本をセットにしました。ぜひご家庭での読み聞かせにお役立てください。

≪利用について≫

利用対象：市内にお住まいの方

◆絵本の対象年齢①０歳のセット（はじめてセット）※Ａ・Ｂ　　各2種
②１歳のセット（よちよちセット）※Ａ・Ｂ・Ｃ　各3種
③２歳のセット（わくわくセット）※Ａ・Ｂ・Ｃ　各3種

◆貸出期間：２週間　　※延長もできますが、お待ちの方がみえる場合はできません。

◆貸出・返却場所：①桑名市立中央図書館　カウンター（9時～21時）
②ふるさと多度文学館　カウンター（9時～17時）
③長島輪中図書館　　カウンター（9時～17時）
④桑名市中央保健センター　ロビー（離乳食教室の後）
⑤桑名市子ども・子育て応援センター「ぽかぽか」　（月1回）

◆貸出方法：申込用紙に氏名、図書館の利用券番号をご記入ください。
（利用券をお持ちでない方は氏名、住所、電話番号をご記入ください）

たくさんの子どもたちに絵本が届き、絵本の楽しさを
知り、読書に親しんでいただけるよう、願っています！

ゆめはま文庫　Ｑ＆Ａ

Ｑ　０歳の赤ちゃんに絵本がわかるのですか？また必要なのでしょうか？

Ａ　赤ちゃんは家族の方をはじめ、周りの方からくり返し話しかけられたことばを耳で聞き、語り手のことばと一緒に人間の豊かな喜怒哀楽も覚えます。赤ちゃんとコミュニケーションをとることは、人間らしい心を育てていくためにとても大切です。絵本は豊かな言葉の宝庫です。絵本を読んであげることで赤ちゃんを豊かな言葉の世界へ導くことができます。

Ｑ　「ゆめはま文庫」を借りる時に図書館の利用券は必要でしょうか？

Ａ　「ゆめはま文庫」は図書館の所蔵の本とは異なります。図書館の利用券は必要ありません。
（図書館の利用券をお持ちの方は貸出手続きが簡易化されます）

Ｑ　住所は桑名市外ですが、「ゆめはま文庫」を借りることができますか？

Ａ　「ゆめはま文庫」を借りていただけるのは桑名市内の方に限らせていただいております。

Ｑ　「ゆめはま文庫」の絵本は図書館の返却ポストに入れることはできますか？

Ａ　「ゆめはま文庫」は返却ポストには入れることはできません。市内図書館の開館時間内、または中央保健センター・子育て応援センター「ぽかぽか」にご返却ください。

Ｑ　貸出し期間は２週間ですが、延長はできますか？

Ａ　他にお待ちの方がみえなければ延長できます。桑名市立中央図書館までお問い合わせください。

Ｑ　すべて貸出し中の場合、予約はできますか？

Ａ　予約できます。お待ちのセットが返却されましたらご連絡いたします。

Ｑ「ゆめはま文庫」の中の絵本しか読み聞かせには適さないのでしょうか？

Ａ「ゆめはま文庫」の中の絵本だけが、子どもに読んであげるべき絵本というわけではありません。
家族の方の声で読んであげることがお子さんにとって一番の喜びになります。その他の絵本についても家族の方で選んでいただき読んであげてください。

Ｑ　読み聞かせボランティアをしています。保育園（例）の読み聞かせで使いたいのですが、借りることはできますか？

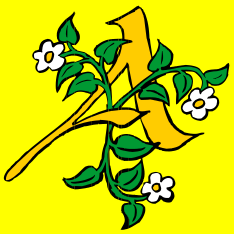
Ａ　市内にお住まいの方であれば、どなたでもお借りできます。ぜひご活用ください。

※その他の問い合わせは・・・・

桑名市立中央図書館（電話：０５９４－２２－０５６２）

0歳

はじめてセット A



あかちゃんは「笑いのプログラム」を持って生まれてきます。気もちがよいと笑うのです。おうちの人の笑顔や語りかけは「気もちがよい」・「うれしい」こと！絵本を使って語りかけてあげてください。

『いない いない ばあ』

松谷　みよ子/作

瀬川　康男/画

童心社 （1967 年刊）

「松谷みよ子あかちゃんの本」として出版されてから、ずっと愛され続けています。

あかちゃんのだいすきな「いないいないばあ」が絵本といっしょに楽しめます。

『ごぶごぶ ごぼごぼ』

駒形　克己/作

福音館書店 （1997 年刊）

あかちゃんがだいすきな、まるいかたちがいっぱい。その〇の中にゆびをいれて遊ぶことができます。

遊んでいるうちに、あかちゃんもいっしょに 「ぷ ぷ ぷ」と声を出そうとしますよ！

**『がたんごとん
がたんごとん』**

安西　水丸/作

福音館書店 （1987 年刊）

がたん ごとん がたん ごとんと汽車がやってきます。「のせてくださーい」と待っているのは…。貨物車がどんどんいっぱいになっていきます。引っ張っている汽車のお顔も重くなるにつれて変化します。

『あがりめ さがりめ』

ましま　せつこ/絵

こぐま社 （1994 年刊）

おうちの人の声で歌いながら、リズムに合わせてあかちゃんの体に触れたり遊んであげると、しあわせな思いがあかちゃんの記憶に残ります。だんだん反応して体を動かしたり笑うようになります。親子のコミュニケーションにどうぞ。

『かみさまからのおくりもの』

ひぐち　みちこ/作

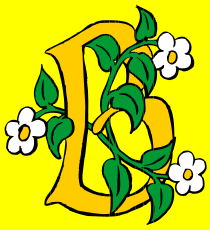
こぐま社 （1984 年刊）

あかちゃんの健やかな成長を願って、おかあさんや おうちの人にぜひ読んで欲しい絵本としてリストに入れました。

じんわりと心に響く絵本です。

0歳

はじめてセット B



あかちゃんは、くり返しの言葉やおもしろい響きのあることばが大好き。耳に残ると、お口を動かしてまねしようとすることも…。あかちゃんのかわいい反応を楽しんでください。

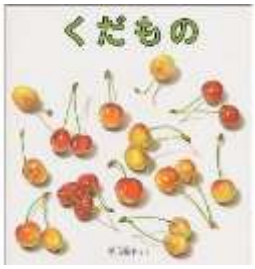
『くだもの』

平山　和子/作

福音館書店　（1979 年刊）

身近なくだものがたくさんでてきます。ページをめくって「さあ、どうぞ。」と声をかけてあげると、あかちゃんもよだれを垂らすくらいおいしそうな絵です。

くりかえしのことばが耳に心地よいです。



『もこ　もこもこ』

谷川　俊太郎/作

元永　定正/絵

文研出版　（1977 年刊）

絵とことばがみごとにマッチした絵本の世界へどうぞ！

「もぐもぐ」・「ぱく」はあかちゃんの好きなことば。その他、いろんなことばの世界が広がります。

何度でもくりかえして読んであげてください。

『じゃあじゃあ　びりびり』

まつい　のりこ/作

偕成社　（1983 年刊）

あかちゃんがはじめて出会うオノマトペ（擬音語）がたくさん出てきます。あかちゃんはリズムのある言葉が大好きです。

言葉が体験と結びついた時、あかちゃんの世界が、ぐんと広がります。

『ととけっこう　よがあけた』

こばやし　えみこ/案

ましま　せつこ/絵

こぐま社　（2005 年刊）

「ととけっこう　よがあけた」のわらべうたにあわせてページをめくると、元気なにわとりが動物のこどもたちを起こしてくれます。

かんたんな節にあわせて毎朝の「おはよう」に使ってください。

『かみさまからのおくりもの』

ひぐち　みちこ/作

こぐま社　（1984 年刊）

あかちゃんの健やかな成長を願って、おかあさんやおうちの人にぜひ読んで欲しい絵本として

リストに入れました。

じんわりと心に響く絵本です。

1歳

よちよちセット A

1歳になったら、身近な「せいかつ」絵本を喜ぶようになります。知っているものを見つけて話しかけてあげましょう。まだ話せなくても、あいさつのことばや身近な物の名前などが、子どもの中に自然に蓄えられます。

『こんにちは』

わたなべ　しげお/文

おおとも　やすお/絵

福音館書店　(1979 年刊)

「こんにちは」は、まほうのことば。ここから、たくさんの出会いが始まる、ということが素敵に伝わる絵本です。
1歳になってはじめての「せいかつ絵本」としてどうぞ。

『いい　おかお』

松谷　みよ子/文

瀬川　康男/画

童心社　(1967 年刊)

「いいおかお」ってどんなおかおかな？この絵本を読んでいくと、自然に「いいおかお」になりますよ。
「いいおかお」は、しあわせのしるし。
「いいおかお」が、どんどんふえていくといいなあ。

『でんぐり　でんぐり』

くろい　けん/作・絵

あかね書房　(1982 年刊)

けんちゃんがでんぐりがえりをするよ、ころん。
ねこちゃんもまねして、ころんころん。
動物が増える度に、ころん、ころんがふえていきます。
くりかえしのリズムが楽しい絵本です。

『おつきさまこんばんは』

林　明子/作

福音館書店　(1986 年刊)

くらい夜空に、ぽっかりおつきさまがでてきたよ。明るいね。
何度も読んでいると、おつきさまを見た時、自然と「こんばんは」のことばがでてきます。まんまるおつきさまを見たら、笑っているように見えるかもしれません。

『うまれてきてくれて　ありがとう』

にしもと　よう/文

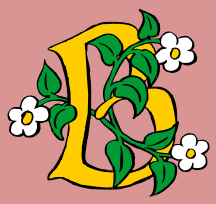
黒井　健/絵

童心社　(2011 年刊)

これは、おかあさんに紹介したい1冊です。
つい忘れてしまいがちだけど「うまれてきてくれてありがとう」の気持ち、大切にしたいですね。
出会ったあの日にタイムスリップできます。

1歳

よちよちセット B



絵本の中のお友達が身近に感じられる本も喜びます。お気に入りのページや絵本もできてきます。まねすることもふえてきます。

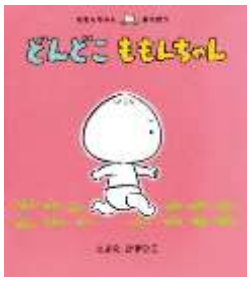
『どんどこ ももんちゃん』

とよた　かずひこ/作・絵

童心社 （2001 年刊）

どんどこどんどこ、ももんちゃんが急いでいます。くまがとおせんぼしても、坂道でころんだって、行きたいところにまっしぐら。

ももんちゃんが子どもから絶大な人気がある理由、わかります。



『いやだ いやだ』

せな　けいこ/作・絵

福音館書店 （1969 年刊）

1歳半を過ぎたころから、「いや」と言うことが多くなります。これも子どもの成長のしるし。はじめての自我の目覚めなんです。おうちの人にとっては大変なこともありますよね。そんな時期を絵本が少し助けてくれます。

『どうぶつの おやこ』

薮内　正幸/画

福音館書店 （1966 年刊）

この絵本には文字はひとつもありません。でも子どもをおひざにのせてページをめくれば、きっといろいろなことばが交わされることでしょう。

細密に描かれた、慈しみあう動物の姿が大切なことを伝えてくれます。

『はなを くんくん』

ルース・クラウス/文

マーク・シーモント/絵

きじま　はじめ/訳

福音館書店 （1967 年刊）

かすかな香りに誘われ、まっしろな雪の中で森の動物たちが見つけたのは…。白と黒だけで動物たちの表情やざわめきが豊かに伝わります。

最後のページは、春を見つけた喜びに満ち溢れています。

『うまれてきてくれて ありがとう』

にしもと　よう/文

黒井　健/絵

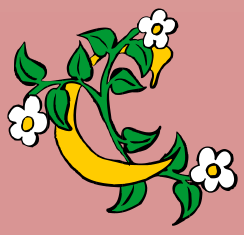
童心社 （2011 年刊）

これは、おかあさんに紹介したい 1 冊です。

つい忘れてしまいがちだけど「うまれてきてくれてありがとう」の気持ち、大切にしたいですね。出会ったあの日にタイムスリップできます。

１歳

よちよちセット　C



絵をみて、語りかけてあげましょう。
ゆったりとしあわせな時間が、親子の絆を深めます。
子どもは心の栄養をもらってすくすく育っていきます。

『おにぎり』

平山　英三/文

平山　和子/絵

福音館書店　（1981 年刊）

手のひらを山形にして、たきたてのごはんをぎゅっぎゅっとにぎったら、おいしいおにぎりのできあがり。いっしょに作りたくなりますよ。
やわらかな手のひらの温かさが伝わってきます。

『だるまさんが』

かがくい　ひろし/作

ブロンズ新社　（2008 年刊）

「だるまさんが」とゆっくり読んで次のページをめくると、「どてっ」とだるまさんがみごとにころんでいます。子どもはこの場面に大喜び。ページをめくる毎に、思いがけないだるまさんの動きと変化に、目がくぎづけです。

『きんぎょが　にげた』

五味　太郎/作

福音館書店　（1977 年刊）

にげた「きんぎょ」をさがしましょう！なかなか上手に隠れているよ。
次から次へと隠れる「きんぎょ」を、見つけると、子どもたちは満足感でいっぱいになります。楽しい「かくれんぼ」絵本です。

『あおくん　と　きいろちゃん』

レオ・レオーニ/作

藤田　圭雄/訳

至光社　（1967 年刊）

あおときいろの丸たちが、ページをめくると主人公になって動きだして見えてきます。泣いている場面や笑ってる場面もほらっ表情に見えてきます。いっしょに指で形をなぞって、おはなしして遊んでいると、知らず知らずに「色」のおはなしになっている素敵な本です。

『ちびゴリラのちびちび』

ルース・ボーンスタイン/作

いわた　みみ/訳

ほるぷ出版　（1978 年刊）

ちいさなかわいいゴリラのちびちびは、みんなの人気者。お子さんは「ちびちび」の気持ちで、おはなしを聞くことでしょう。
愛されているという思いは子どもの成長にとても大切。
おたんじょうびのころ、ぜひ、読んであげてください。

２歳

わくわくセット　A

２歳の頃には話す「ことば」が急に増えてきます。絵本がきっかけになることも・・・。子どもにとって絵本は未知の世界への入り口です。「きょうはどこへいこうか？」

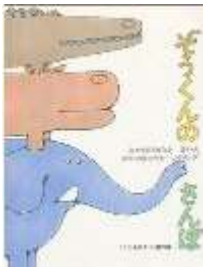
『ぞうくんの　さんぽ』

なかの　ひろたか/作・絵

なかの　まさたか/レタリング

福音館書店　（1968 年刊）

ぞうくんが「さんぽ」にでかけます。かばくんや、わにくんと出会っていっしょに「さんぽ」にでかけることに・・・。ぞうくんは力もちでやさしいね。さいごの「どっぼーん」が気もちよくて、しあわせな気分になります。



『はらぺこ　あおむし』

エリック・カール/作

もり　ひさし/訳

偕成社　（1976 年刊）

日曜日の朝、たまごからうまれたあおむしはすごい食欲です。月曜日にはりんごをひとつ、火曜日になしをふたつ、水曜日にすももをみっつ…と食べる物が増えていき…。食べた後は穴が空いているという、とても愉快なしかけ絵本です。

『もりのなか』

マリー・ホール・エッツ/文・絵

まさき　るりこ/訳

福音館書店　（1963 年刊）

子どもをおひざに載せて、お互いに体温を感じながら読んであげてください。

白と黒だけで描かれていますが、絵とことばが「もりのなか」に誘い出してくれます。素敵な絵本の世界へさあ、出発！

『ねずみくんのチョッキ』

なかえ　よしを/作

上野　紀子/絵

ポプラ社　（1974 年刊）

おかあさんが編んでくれた赤いチョッキ。ぼくにぴったり！とねずみくんは得意顔。あひるが「いいチョッキだね。」とちょっと借りていったばかりに…チョッキは伸びきってしまいますが、最後のページで「ふふ」と笑えます。

『ちょっとだけ』

瀧村　有子/作

鈴木　永子/絵

福音館書店　（2005 年刊）

なっちゃんは、まだ甘えたいのに赤ちゃんがやってきた日からお姉ちゃんになりました。

「ちょっとだけ」できることが増えて、一人で頑張る姿が健気です。時には赤ちゃんに「ちょっとだけ」がまんしてもらって優先してあげたいですね。

２歳

わくわくセット B

2歳を過ぎると、少し長いおはなしも楽しめるようになります。主人公になった気持ちで絵本の世界に入っていくことも…。子どもは冒険がだいすき。絵本で世界が広がります。

『ぐりとぐら』

なかがわ　りえこ/作

おおむら　ゆりこ/絵

福音館書店　（1963 年刊）

のねずみのぐりとぐらが　どんぐりひろいにでかけると、道の真ん中に大きなたまごが落ちていました。ふたりはおうちに持って帰ろうとしましたが・・・。

図書館でいつも貸出中になるほどの人気絵本です。

『おおきなかぶ』

ロシア民話　A.トルストイ再話

佐藤　忠良/画

内田　莉莎子/訳

福音館書店（1962 年刊）

おじいさんが「あまいあまいかぶになれ。おおきなおおきなかぶになれ」と言って植えたかぶは、とてつもなく大きいかぶになりました。

ことばと絵がよく合っていて、ページをめくるのが楽しくなります。

『おんなじ　おんなじ』

多田　ヒロシ/著

こぐま社　（1968 年刊）

2 歳頃になると、「おんなじ」と「ちがう」ことに関心がでてくるようです。

なかよしの「ぶう」と「ぴょん」はおそろいのくつに、おそろいのぼうし。「おんなじだね」と声にだしてひとつひとつ、いっしょに見てあげてください。

『14 ひきの　あさごはん』

いわむら　かずお/作

童心社　（1983 年刊）

おとうさん　おかあさん　おじいさん　おばあさん　そしてきょうだい１０ぴきのねずみの大家族のおはなしです。みんなで作った朝ごはんはとてもおいしそう！細かい所まで描かれていて、親子でいろいろ見つけて楽しめます。

『おでかけのまえに』

筒井　頼子/作

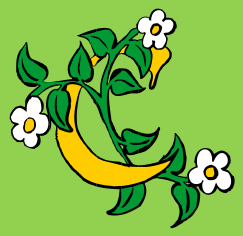
林　明子/絵

福音館書店　（1980 年刊）

ピクニックにいくのをとても楽しみにしているあやこは、晴れたことがうれしくてたまりません。お手伝いしてくれるのですが、かえって手のかかることに・・・。親は悲鳴を上げそうな展開ですが、子どもの行動がよく描かれていて温かいです。

2歳

わくわくセット C



親子で共通の絵本体験を持つことは、しあわせな記憶となります。いっしょに共感して感動を分かちあってください。
絵本を仲立ちとした思い出はその場の情景とともにお互いの心に残ることでしょう。

『はけたよ はけたよ』

かんざわ　としこ/文
にしまき　かやこ/絵
偕成社　（1970 年刊）

子どもは毎日成長します。
昨日できなかったことが、今日は、するりとできることもあります。うれしそうに「見て見て！」と何度も見せにきます。お子さんの誇らしい気持ちを大切に、そんな時期に読んであげてほしい絵本です。

『しろくまちゃんの ほっとけーき』

わかやま　けん/著
こぐま社　（1972 年刊）

ほっとけーきを焼く時の「ぽたあん」「どろどろ」「ぴちぴち」「ぷつぷつ」そして、「しゅっ」「ぺたん」と返す音。おいしい体験といっしょになると、忘れられない一冊になるでしょう。2歳頃になると、絵を読んで、いろいろ発見してくれます。

『てぶくろ』

ウクライナ民話
エウゲーニー・M・ラチョフ/絵
うちだ　りさこ/訳
福音館書店　（1965 年刊）

「てぶくろ」が動物でどんどんいっぱいになって、きゅうくつになります。
そのきゅうくつさを想像しながら、子どもたちは「入れて」や「どうぞ」のくりかえしのやりとりを、とても楽しみます。
親子で「ごっこあそび」も楽しんでください。

『わたしのワンピース』

にしまき　かやこ/絵と文
こぐま社　（1969 年刊）

うさぎさんがミシンカタカタって作ったワンピースはふしぎなワンピース。お散歩していると、まっ白いワンピースから、水玉もようになったり、星のもようになるのです。
うさぎさんの「にあうかしら？」の問いかけに、いっしょに答えてあげてください。

『おとうさん あそぼう』

わたなべ　しげお/文
おおとも　やすお/絵
福音館書店　（1984 年刊）

最近は「イクメン」なるパパの活躍もよく耳にします。
「どんなふうに子どもと遊んだらいいのかな？」という声も…。
簡単なふれあいあそびがいくつも載っていて、お子さんと楽しい時間がすごせますよ！

絵本「読み聞かせ」のすごい力 10 ヵ条

１）　言葉（言語力）を発達させる。
２）　感性・感情をきめ細かく分化発達させる。
３）　文脈理解力を発達させる。
４）　読み手の情感をこめた読み方によって、子どもの心に絵本の内容が「現実体験」に等しいかたちで、深く染み渡って記憶される。
５）　子どもが自分で時間をコントロールすることができる唯一といえるメディアである。子どもはゆっくりと絵の細かいところまでたのしんだり、前の頁にもどったりして、深く記憶に刻んでいく。
６）　親も心が穏やかになって、ガミガミ言わなくなり、やさしく子どもに接するようになる。
７）　言うことをきかなかった子どもも、心が穏やかで素直になって、読み聞かせに気持ちを集中させる。
８）　親が子どもと生身で触れ合うアタッチメントの機会を取り戻す時間になる。
９）　絵本は大人になってから「心の故郷」になるほど、心の深いところに刻まれ、生涯の「心の財産」となる。
１０）　大人たちのグループで、自分たちのための絵本の「読み聞かせ」をして、心を癒すことができる。

『みんな、絵本から』　柳田　邦男/著　石井　麻木/写真　講談社　2009 年刊より

ー幼いころに心をこめて語ってもらったお話は、その後も心から消え去ることがありません。それどころか人生の最も重要なときに、心の底でよみがえり、さまざまな考え方を指し示してくれるのです。ー

『絵本は愛の体験です。』　松居　友/著　洋泉社　2000 年刊より

発行　平成２３年８月
改訂　平成２５年８月
（貸出場所に「ぽかぽか」を追加）
平成２７年５月
（長島輪中図書館閉館時間の変更）
平成３０年４月
（貸出方法の変更）